

記者懇談会・社長会見

大日本住友製薬株式会社
代表取締役社長 多田 正世
2015年8月6日

2015年度第1四半期 経営成績

金額単位:億円

	2014年度 1Q実績	2015年度 1Q実績	前年同期比		増減率 (%)	2015年度2Q		2015年度	
			増減額	うち 為替差		従来 予想 *	進捗率 (%)	従来 予想 *	進捗率 (%)
売上高	897	981	84	75	9.3	1,930	50.8	3,920	25.0
売上原価	241	264	23	8	9.4	510	51.7	1,020	25.8
売上総利益	657	718	61	67	9.3	1,420	50.5	2,900	24.7
販売費及び 一般管理費	570	673	104	68	18.2	1,310	51.4	2,630	25.6
販売費・ 一般管理費	418	472	55	48	13.1	895	52.8	1,760	26.8
研究開発費	152	201	49	20	32.2	415	48.5	870	23.1
営業利益	87	44	△43	△2	△48.9	110	40.4	270	16.5
経常利益	96	47	△48		△50.5	110	43.0	265	17.8
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	58	59	2		3.2	80	74.3	180	33.0
E B I T D A	149	97				215		475	

* 業績予想の一部を修正

【為替レート】

2014年度1Q実績: 1\$ = 102.2円

1元=16.4円

2015年度1Q実績: 1\$ = 121.4円

1元=19.6円

2015年度従来予想: 1\$ = 115.0円

1元=18.5円

主要製品売上高(日本セグメント)

金額単位: 億円

	2014年度 1Q実績	2015年度 1Q実績	前年同期比		2015年度2Q累計	
			増減額	増減率(%)	従来予想	進捗率(%)
アイミクス	26	35	9	35.8	78	44.8
アバプロ	28	27	△1	△3.0	58	46.4
ロナセン	23	31	8	32.4	64	48.3
トレリーフ	24	33	8	35.3	70	46.6
戦略品 計	101	125	24	24.2	270	46.4
シュアポスト	5	8	4	75.1	17	48.1
アムビゾーム	9	10	1	8.8	24	41.2
リプレガル	24	28	4	15.3	54	51.3
メトグルコ	36	49	12	33.7	80	61.0
アムロジン	51	42	△9	△17.4	89	47.4
ガスモチン	27	22	△5	△18.0	44	50.6
プロレナール	27	23	△4	△13.6	47	49.1
メロペン	20	16	△4	△18.9	36	45.7
その他	75	58	△17	△22.5	126	45.9
その他の品目計	274	256	△18	△6.5	517	49.6
合計	375	382	7	1.8	787	48.5

(注) 品目別の売上高は、リベート控除前で記載

主要製品売上高(北米・中国セグメント)

	2014年度 1Q実績	2015年度 1Q実績	前年 同期比 増減額	2014年度 1Q実績	2015年度 1Q実績	前年同期比	
						増減額	うち 為替差
北米セグメント	(百万ドル)			(億円)			
ラツーダ	180	218	38	184	265	81	42
アプティオム	8	13	4	9	15	7	2
ブロバナ	46	58	11	47	70	23	11
シクレソニド	16	17	1	16	21	5	3
ゾペネックス	24	13	△11	24	16	△8	3
ルネスタ	46	11	△36	47	13	△34	2
工業所有権収入	12	9	△3	13	11	△1	2
その他	16	10	△6	16	12	△4	2
合 計	349	349	△0	356	423	67	67
中国セグメント	(百万元)			(億円)			
メロペン	213	193	△21	35	38	3	6
その他	44	41	△4	7	8	1	1
合 計	257	233	△24	42	46	3	7

2015 年度2Q累計		
従来予想 *		円ベース 進捗率
(百万ドル)	(億円)	(%)
469	539	49.1
19	22	69.0
103	118	59.5
26	31	66.3
18	21	76.7
18	21	62.1
19	22	51.5
24	26	47.3
696	800	52.9
(百万円)	(億円)	(%)
429	79	47.7
90	17	46.8
519	96	47.6

【為替レート】

2014年度1Q実績: 1\$ = 102.2円 1元=16.4円
2015年度1Q実績: 1\$ = 121.4円 1元=19.6円
2015年度従来予想: 1\$ = 115.0円 1元=18.5円

* 一部製品の売上予想を修正

2015年度業績修正予想(従来予想比較)

金額単位: 億円

	2015年度2Q累計			2015年度		
	従来 予想	今回 修正	増減額	従来 予想	今回 修正	増減額
売上高	1,930	1,975	45	3,920	4,010	90
売上原価	510	518	8	1,020	1,035	15
売上総利益	1,420	1,457	37	2,900	2,975	75
販売費及び一般管理費	1,310	1,347	37	2,630	2,705	75
販売費・一般管理費	895	922	27	1,760	1,810	50
研究開発費	415	425	10	870	895	25
営業利益	110	110	—	270	270	—
経常利益	110	110	—	265	265	—
親会社株主に帰属する当期 (四半期)純利益	80	80	—	180	180	—
E B I T D A	215	217	2	475	478	3

修正内容: 為替レート的前提見直しによる修正

【為替レート】

2015年度従来予想: 1\$ = 115.0 円 1元 = 18.5 円

2015年度修正予想: 1\$ = 120.4 円 1元 = 19.5 円

2015年度 日本セグメントの展望

- 長期収載品の売上減少を戦略品や新製品の売上拡大で補う
- 継続して新薬を創出するために、戦略的な投資による提携や導入を推進

新製品として早期
立ち上げを目指す

◆ そう痒症改善剤「レミッチ」のプロモーション提携

- ✓ 慢性肝疾患患者におけるそう痒症の初めての治療薬
- ✓ 肝臓領域におけるプレゼンスの向上
(開発中のDSP-1747: 非アルコール性脂肪肝炎治療剤)

◆ GLP-1受容体作動薬「トルリシティ」の販売提携

- ✓ 販売提携契約を日本イーライリリーと締結(薬価収載後に発売)
- ✓ 両社のシナジーで、GLP-1注射剤市場の拡大を期待
- ✓ 既存の糖尿病治療剤とのシナジーを期待

導入・提携の推進

◆ オープンイノベーション開発室（2014年12月～）

初期臨床段階までの新薬候補化合物や最先端技術に関する情報収集・評価を行い、初期臨床段階までの化合物の導入や提携などを推進

公募型 オープンイノベーション活動

名称: PRISM (Partnership to Realize Innovative Seeds and Medicines)

目的: 社内研究のみでは達成困難な、革新的創薬シーズやアイデア、技術を導入する

募集期間: 2015年7月6日～8月31日（2015年11月30日までに最終の選考結果を通知）

特長: 研究費(500万円/案件)に加え、化合物ライブラリ、創薬技術等の供出を含んだ戦略的提携

◆ アカデミア・ベンチャーとの提携

新薬候補化合物の提携や導入に取り組む

【アカデミア】

京都大学
京都大学iPS細胞研究所
慶應義塾大学
理化学研究所

【ベンチャー】

サンバイオ社
エジソン社
ヘリオス社
ベンチャーファンドへの出資
(Remiges Ventures)

期待の開発品（2015年7月29日現在）

領域	開発品目	上市目標			
		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
精神神経領域	AS-3201<ラニレストット> (糖尿病合併症) 日本	●			
	SEP-225289 <dasotraline> (成人・小児 注意欠如・多動症) 米国		●		
	SEP-225289 <dasotraline> (過食性障害) 米国			●	
	SB623 (慢性期脳梗塞) 米国				●
がん領域	BBi608 (胃または食道胃接合部腺がん／併用) 米国・日本	●			
	BBi503 (固形がん／単剤) 米国・日本		●		
呼吸器領域	SUN-101<グリコピロニウム臭化物> (慢性閉塞性肺疾患) 米国	●			
肝臓領域	DSP-1747 (非アルコール性脂肪肝炎) 日本				●

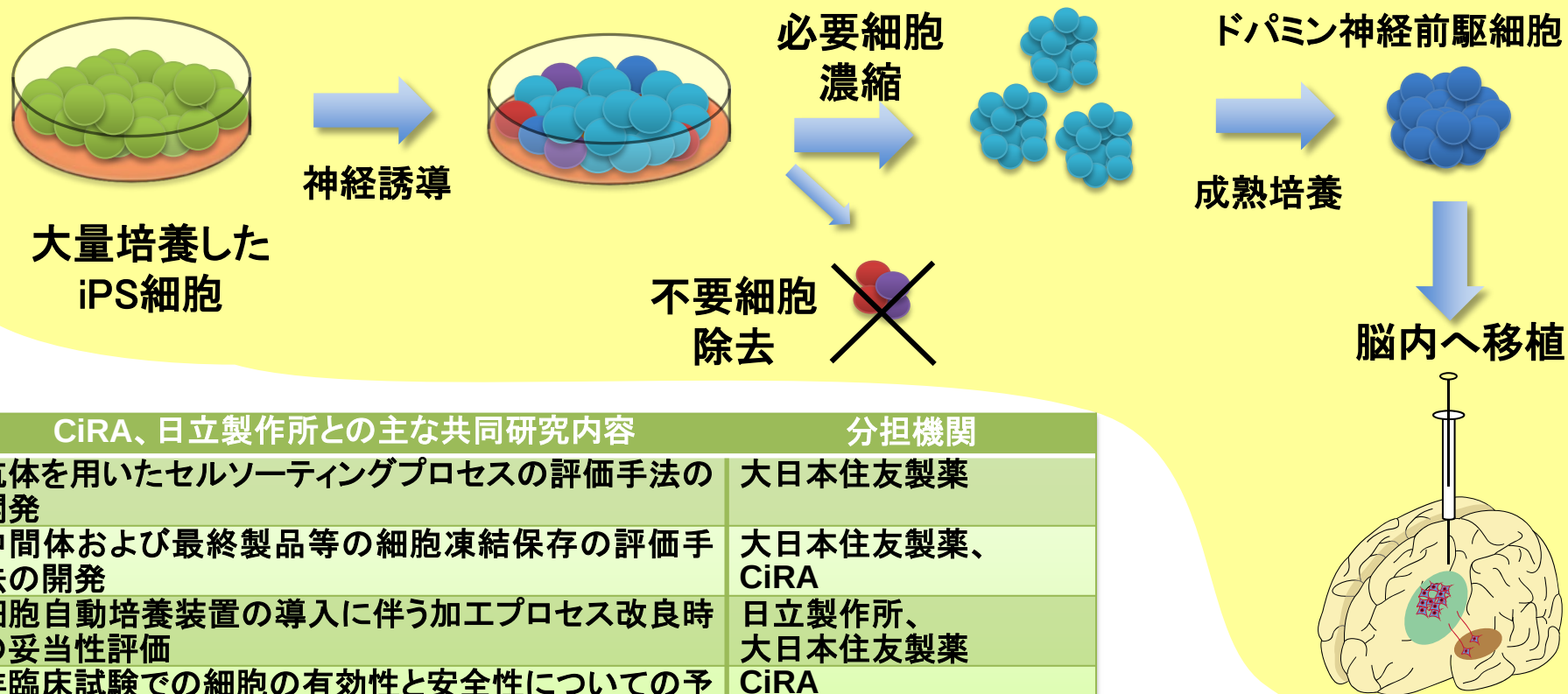
BBi608およびBBi503については、メカニズムや非臨床試験の結果などから、効果が期待できるがん種や併用試験については、幅広く第Ⅰ相試験や第Ⅱ相試験を実施。その結果を基に、厳選して第Ⅲ相試験を進めていく。

再生・細胞医薬分野 研究開発の取り組み

～ヒトiPS細胞を用いたパーキンソン病に対する細胞移植治療～

- ✓ 2014年5月から、京都大学iPS細胞研究所(CiRA)と共同研究
(CiRAの高橋 淳先生が2015年中に臨床研究の申請予定)
- ✓ 2015年7月、CiRA、株式会社日立製作所と生産方法等の共同研究にも着手

ドパミン神経前駆細胞を用いた細胞移植治療



CiRA、日立製作所との主な共同研究内容

分担機関

抗体を用いたセルソーティングプロセスの評価手法の開発

大日本住友製薬

中間体および最終製品等の細胞凍結保存の評価手法の開発

大日本住友製薬、
CiRA

細胞自動培養装置の導入に伴う加工プロセス改良時の妥当性評価

日立製作所、
大日本住友製薬

非臨床試験での細胞の有効性と安全性についての予備検討ならびに理論構築

CiRA

再生・細胞医薬分野 事業化計画

	連携先	予定地域	細胞種	実用化に向けたスケジュール					
				2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
慢性期 脳梗塞	サンバイオ	北米	他家 MSC	Ph2b			Ph3		承認目標
加齢黄斑 変性	ヘリオス 理化学研究所	国内	他家 iPS細胞	臨床研究 (自家／他家)			医師主導治験		承認目標
パーキン ソン病	京都大学iPS 細胞研究所 (CiRA)	global	他家 iPS細胞	臨床研究(自家)			医師主導/企業治験		
網膜色素 変性	理化学研究所	global	他家 iPS細胞				医師主導治験		
脊髄損傷	慶應義塾大学 大阪医療センター	global	他家 iPS細胞				臨床研究(他家)		

将来予測に関する注意事項

この資料に含まれる将来の予測に関する事項は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定および判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。

したがって、実際の業績、開発見通し等は今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき願います。

医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。